

# あけぼのすぎ

都立府中療育センター新聞 第497号 発行日 令和元年5月7日

## 着任挨拶



### ○事務次長 鹿内 弘実（しかうち ひろみ）

4月1日付けで東京都社会福祉事業団事務局から事務次長に着任いたしました鹿内です。

前職では、都立福祉施設（知的障害児・者施設、身体療護施設、児童養護施設）を支える固有職員の人材育成に携わってまいりました。

私事ですが、今から約20年前旧衛生局で初めて担当した業務が重症心身障害児（者）の入所や通所事業でしたので懐かしい思いがいたします。同時に「令和」という新たな時代の幕開けとともに、歴史ある府中療育センターが生まれ変わる瞬間を支える大役を仰せつかり身が引き締まる思いです。竣工に向けて着実に準備を進めてまいりたいと存じますので、どうか皆さまの御協力をお願いします。

あわせて、利用者本位のサービスの提供のために、現場を支える医療職、看護職、福祉職、事務職がチーム力を発揮できるよう、よりよい施設運営に取り組んでまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

### ○看護科担当科長 小関 次子（こせき つぎこ）

4月1日付けで看護担当科長に着任いたしました。着任、それは5つの「お初」なことがありましたのでご紹介します。

『1. 療育施設での勤務』入職時から急性期一般病院のみの経験ですので、「利用者さん」と呼ぶ療育施設に若干の戸惑いを感じました。看護科長より初めて施設内を案内していただいた時、医療的ケアの利用者さんの多さに驚き、かつ綺麗にケアされていることに感動しました。

『2. 多摩メディカルキャンパスでの勤務』多摩地域に住みながら多摩メディカルキャンパスでの勤務は初めてです。長いこと勤務していますと異動先で「久しぶり～」などと懐かしく声をかけていただくことも多々あるのですが、当施設でお互いに知った方はたった1名のみでした。

『3. 山手線に乗らない通勤』入職後数十年に渡りラッシュの山手線通勤をしていました。それがないので、通勤ストレスが随分緩和されています。

『4. 男性上司・同僚との勤務』看護業界ではかなり稀有なことと思います。お二人には日々親切丁寧に教えを乞うています。

『5. 新施設への移転』過日、とあるテレビ番組で72時間のドキュメント番組をたまたま観ました。それはまさに病院の引っ越しでした。「まあ～大変…でも、楽しいかも…」などと他人事とと思っていました。まさか、自分がそのような立場になるとは…。

このように、当施設への異動は人生においても忘れがたい思い出となりそうです。

皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

## 退任挨拶

### ○前事務次長 小鶴 隆志（こづる たかし）

1年間と大変短い期間でしたが、皆様には大変お世話になりました。

昨年4月に着任し、「ご利用者の日々の生活を支えること」、「新センターの移転改築」を大きな課題として受け止め、この一年間、取り組んできました。毎日のように、いろんな出来事や問題が起こり、なかなか予定どおりに仕事が進まず、ご利用者の生活を支える仕事の大変さを痛感しました。移転改築に向けては、十分な体制が整わず、事務室の皆さんには大変な思いをさせてしまいましたが、31年度に向け最低限の準備と必要な予算、人員体制は確保でき、最低限の役割は果たせたのではないかと考えています。

ただ言うまでもなく、これらは事務室の皆さんの努力のお陰ですし、至らない点は多々あったと思いますが、なんとか事務次長の役割を担ってこられたのも、院長をはじめ各管理職の皆様、各科職員の皆様のご理解・ご協力があったからこそだと思っております。

また、小泉会長をはじめ家族会の皆様にも、大変快く接していただきました。家族会活動の大変さを通して、当センターが本当に多くの方々の想いに支えられていること、そして、自分自身、改めて家族の大切さ、有り難さを痛感する機会となりました。

今回、突然の異動で驚きましたし、内示から異動まで時間がなく、書類整理や引継資料の作成に追われて、お世話になった皆様に十分なお挨拶ができなかったのはとても残念でしたし、やり残したこともあります。神経坂を通るたび四季を感じながら、皆様と楽しく仕事ができ、とても実のある時間を過ごすことができました。

新センターが、ご利用者様、ご家族の皆様、職員の皆様にとってより良い施設になりますよう心より祈念しております。本当にありがとうございました。

## 人事異動

	医局	薬剤科	検査科	栄養科	看護科	訓練科	指導科	事務室	合計
退職者数		1			16		3	4	24
転出者数				1	4	1	2	3	11
転入者数		1		1	18		5	9	34
新規採用者数					2		2	1	5
再任用者数		1		3	11	1	1	2	19

※平成31年4月1日現在。

※退職者数・転入者数には、退職後、引き続き再任用された職員を含む。

## 地域ボランティアと連携して「お楽しみ会」を実施しました

訓練科

3月19日（火曜日）、府中療育センターでは、地域ボランティアと連携して「お楽しみ会」を実施しました。

当センターでは、ボランティアとの協働によって、利用者の皆さんの生活が豊かで潤いのあるものとなるように努めております。今回は、府中市ボランティアセンターから紹介していただいた「ブックントイ」の協力を得て、利用者の皆さんにおもちゃを通して楽しんでいただく時間を設けました。「ブックントイ」は、府中市内の小児科クリニックに付属している遊びの広場で、保育士や理学療法士の方が運営に携わっています。今回は、事前の打合せから、木のおもちゃをはじめ、当センターの利用者の皆さんに楽しんでもらえそうなものを選んでご提供いただきました。各病棟や通所から多くの利用者の参加があり、おもちゃに触れたり、また、おもちゃを介してボランティアや職員との交流を楽しんだり、会場のあちらこちらで笑顔がはじけていました。初めての試みではありましたが、障害の重い方でも、いろいろな楽しみや関わりの広げ方があることを再発見する良い機会ともなりました。先方の団体も、今回の企画に手応えを感じていただいたようで、今回の繋がりを大切にしながら、次年度以降も継続していきたいと考えています。

当センターでは、今後ともボランティアとの協働や地域との繋がりを大切にしながら、利用者の皆さんの生活が豊かなものとなるよう努めてまいります。



### センター新聞編集委員（平成31年4月1日現在）

委員長 事務次長 鹿内 弘実

委員 医師 白井 育子、 看護科 菊地 睦・佐藤 知彦、 栄養科 高橋 義博、  
訓練科 牛尾 さくら、 指導科 田中 栄美、 薬剤科 佐藤 文子、 事務室 齋藤 眞珠

今年度もよろしくお願いたします。 委員一同

## 平成30年度「利用者アンケート」の結果について

事務長

当センターでは、利用者本位のより良いサービスの提供を目指して、毎年度利用者アンケートを実施しております。

平成30年度は、都合により福祉サービス第三者評価は実施しませんでした。昨年と同じ項目を利用者アンケートとして御回答いただきました。

お忙しい中、アンケートへの御協力を賜りありがとうございました。

このたび結果がまとまりましたので概要を御報告いたします。

引き続き、利用者本位のより良いサービスの提供を目指し努力してまいります。

調査方法	委託業者から利用者の保護者あてに調査票を直接郵送し、返送いただく方式。	
調査分類	医療型障害児施設	生活介護
調査項目	サービス提供 3項目 安心・快適性 4項目 利用者個人の尊重 4項目 不満・要望への対応 3項目 計 14項目	サービス提供 6項目 安心・快適性 4項目 利用者個人の尊重 4項目 不満・要望への対応 3項目 計 17項目
回答者数／対象者数	136名／250名	17名／30名
回答率	54.4% ↓ (76.6%)	56.7% ↑ (53.2%)
ポイントに変化があった項目及び総合評価	ご本人やご家族のプライバシーが守られている 84.6% ↓ (91.0%)	不満や要望に対して職員が対応してくれている 94.1% ↑ (87.0%)
	総合評価 (大変満足＋満足) 94.9% ↑ (91.0%)	総合評価 (大変満足＋満足) 88.3% ↓ (92.0%)

※ ( ) は、29年度の数値です。

〒183-8553  
東京都府中市武蔵台2-9-2  
東京都立府中療育センター  
電話 042(323)5115  
Fax 042(322)6207

\*-\*-\*ホームページもご覧下さい\*-\*-\*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>